

2020年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 日本文学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号

1 / 5

成

績

2020年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 (日本文学 専攻分野)

(注意事項) ① 第一問の解答は、答案紙十七行程度を標準とする。

② 第二問 1から5までの解答は、それぞれ答案紙七行程度を標準とする。

③ 第一問・第二問・第三問ともに縦書きで解答すること。

1. 大学院で自身の研究しようと考えているテーマと、その研究方法および研究史上の意義について述べて。

二、次の事項について説明せよ。

1 柿本人麻呂

2 『竹取物語』の文学史上の意義

3 『十訓抄』の内容と特質

4 蕪村

5 日本における自然主義文学

三、次の文は、『堤中納言物語』の「貝合はせ」の冒頭部である。この全文を口語訳せよ。和歌の意味についても、できるだけ丁寧に記すこと。

長月の有明の月にさそはれて、蔵人少将、指貫つきづきしく引きあげて、ただ一人、小舎人童ばかり具して、やがて、朝霧もよく立ち隠しつべく、ひまなげなるに、「をかしからむところの、あきたらむもがな」と言ひて歩み行くに、木立をかしき家に、琴の聲ほのかに聞こゆるに、いみじううれしくなりて、めぐる。門のわきなど、くづれやあると見けれど、いみじく、築地など全きに、なかなかわびしく、「いかなる人の、かく弾き居たるならむ」と、わりなくゆかしけれど、すぐきかたもおぼえで、例の、声出ださせて隨身にうたはせたまふ。

ゆくかたも忘るるばかり朝ぼらけひきとどむる琴の聲かな
とうたはせて、まことに、しばし「内より人や」と心ときめきたまへど、さもあらぬはくちをしくて、歩み過ぎたれば、いと好ましげなる童べ、四、五人ばかり走りちがひ、小舎人童、男など、をかしげなる小破子やうのものを捧げ、をかしき文、袖の上のうち置きて、出で入る家あり。「何わざするならむ」と、ゆかしくて、人目見はかりて、やをらはひ入りて、いみじく繁き薄の中に立てるに、八、九ばかりなる女子の、いとをかしげなる、薄色の相、紅梅などみだれ着たる、小さき貝を瑠璃の壺に入れて、あなたより走るさまの、あわたたしげなるを、をかしと見たまふに、直衣の袖を見て、「ここに、人こそあれ」と、何心もなく言ふに、わびしくなりて、「あなかまよ。聞こゆべきことありて、いと恐ひて参り来たる人ぞ。と寄りたまへ」と言へば、「明日のこと思ひはぐるに、今より暇なくて、そそきはんべるぞ」と、さくづりかけて、往ぬべく見ゆめり。

受験記号番号	
--------	--

〔口語訳〕